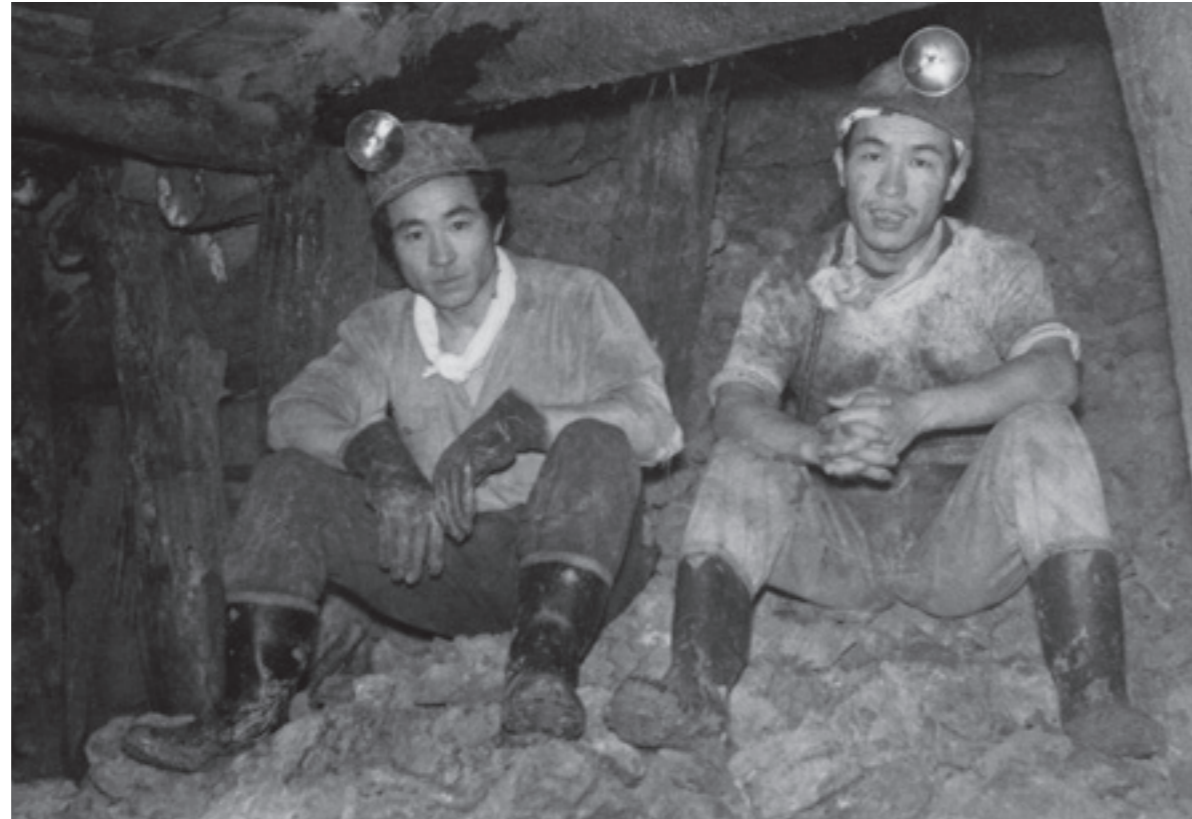


## 鉱山の記録と廃村の記憶

### 鉱山の記録 横田鉱山

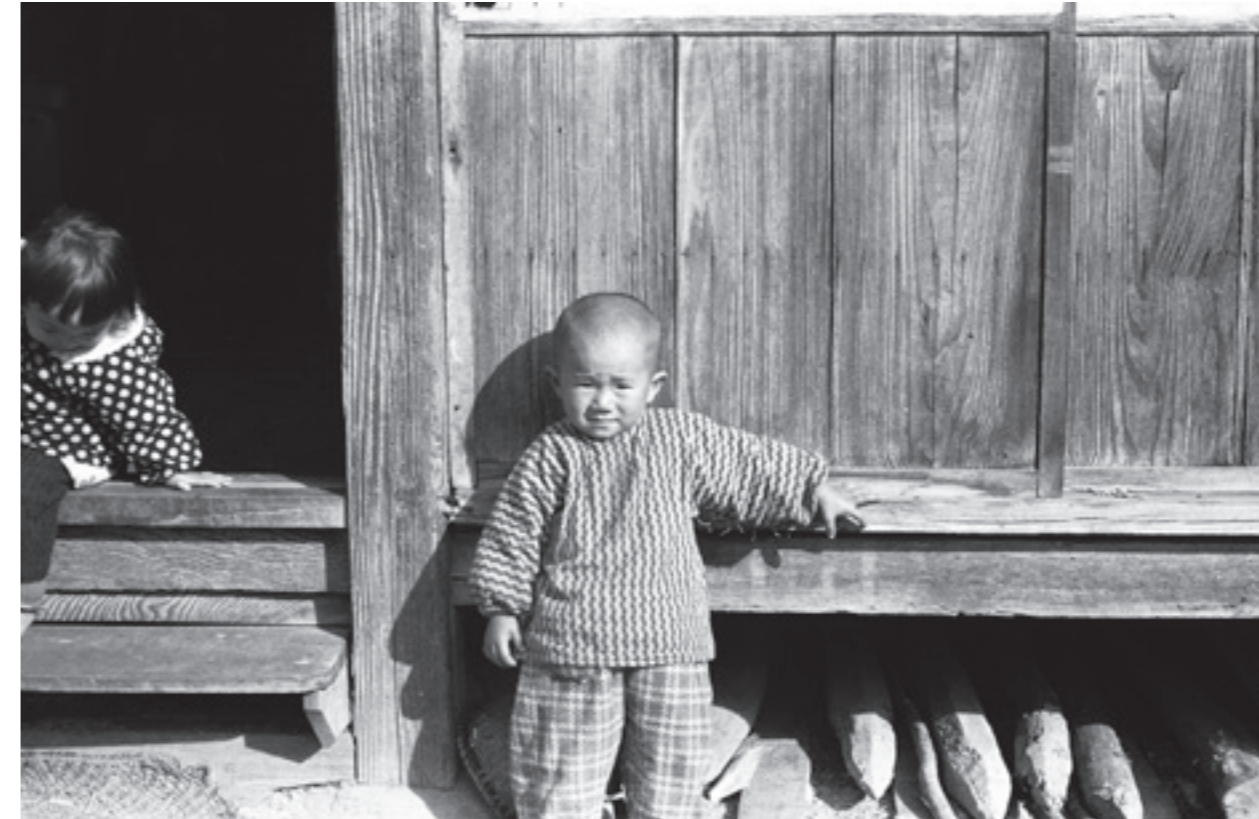
かつての金山町には、三更鉱山、田代鉱山など、いくつもの鉱山が操業していた。そのなかのひとつ、黒鉱・黄鉱を産する横田鉱山では、1937年に露天掘りが、1955年に日本曹達株式会社による地下採掘が開始された。専用住宅が建ち並び、独自の神社がおかれた横田鉱山は、最盛期には全国から集まった139名の従業員が暮らした、ひとつの新しい「村」であった。この「村」のひとつとは、日々の仕事と労働運動を通じてその結束を強めていった。また、労働者向けの商売が盛んとなり、農業青年クラブである4Hクラブの活動を拡大した地元住民と労働者との交流が試みられるなど、地元横田と鉱山「村」の結びつきも次第に深まった。しかし残念ながら、横田鉱山は銅鉱価格の下落により1972年に閉山した。



横田鉱山坑内 金山町・横田 1972年以前



横田鉱山 金山町・横田 1972年以前 / 全国の労働組合と連携して展開した横田鉱山労働運動 金山町・横田 1955～1960年頃 / 横田鉱山坑道入口 24時間体制で行われたスト破りの監視 金山町・横田 1955～1960年頃



三条の子ども 金山町・本名(三条) 1960年以降

### 廃村の記憶 三条

三条は、1981年に廃村となった集落である。冬季には最寄りの本名集落からも徒歩で2時間はかかる山深い地にありながら、町内でも豊かな森林資源に立脚した独自の生活を守ってきた村であった。なかでも山菜は特筆すべきもので、三条のひとつとは、秋には冬越しに必要な食料を「ゼンメエ(ゼンマイ)アテ」と呼ばれる掛売りで購入し、1世帯あたり生で2トンも収穫したという春のゼンマイで支払っていた。写真は、1960年に村で初めてカメラを購入した栗田政行によるもの。栗田は、すでに若者の離村が始まっていた村で、この地に育つ最後の世代になるかもしれない甥や姪たちを多く撮影していた。

金山町には、立地や災害などの理由により、やむなく移転・廃村となった集落が複数ある。



三条の子どもと女性 金山町・本名(三条) 1960年以降 / 三条の通りを行く子ども 金山町・本名(三条) 1960年以降 / 夏期に暮らした農作業のための仮小屋の前に立つ老人と少女 金山町・本名(三条) 1968年 [推定]